

発達障害者の就労を考える

～一人ひとりがベストマッチングするために～

対 象：保護者・企業関係者・就労支援センター・教育関係者

日 時：2015年9月18日(金) 午後13時30分～16時30分(開場13時)

会 場：全水道会館 中会議室 東京都文京区本郷1-4-1

企業見学会 …保護者向けの「株式会社KDDI チャレンジド」見学会

第1部 …セミナー「一人ひとりがベストマッチングするために」

第2部 …グループディスカッション

9月18日(金) WingPRO 主催の企業見学会・セミナーを開催いたしました。見学会に15人、セミナーに75人の参加がありました。多数のご参加ありがとうございました。

ここに簡単ですがご報告をさせていただきます。

☆午前中は、保護者限定でKDDI チャレンジド様を見学しました。

企業の障害者雇用に対する考え方をお聞きし、実際に働いている障害者の様子を見学させていただきました。障害者の特性を生かした職場であり、企業の細やかな配慮があり、さまざまな工夫の現場があり、企業の障害者雇用への真摯な取り組みを実感しました。

☆午後13時30分からは、企業関係者、就労支援者、保護者向けに、セミナー、グループ討議を開催しました。

第1部は、講師のクロスジョブ東京の湯田正樹氏、株式会社いなげやウイングの石川誠氏の「一人ひとりにマッチングするために」と題して、さまざまな事例を交えたお話をお聞きし、その後、質疑応答の時間を取り、さらに充実のあるセミナーとなりました。

第2部は、文京学院大学教授 松為信雄氏のコーディネートによって、様々な立場の方が集まるグループディスカッションを行いました。

企業関係者31人、支援者22人、保護者22人が9つのグループに分かれて、「発達障害者の就労・ベストマッチングする為に」というテーマでグループ討議を行いました。企業関係者の方に、ファシリテーターとなっていただき、自由に40分のディスカッションをした後、各グループで話し合ったことを発表していただきました。

[発表の内容]

- ・企業・保護者・支援者の3者の連携で支えていくことが欠かせない。情報交換・連携は、重要。
- ・企業は、職場への配慮、障害者への理解(障害者対応等)の研修、人材の育成が必要。
- ・支援者は、職場へつなぐ情報を正確に把握し、適材適所かつ、本人の希望を十分理解し、企業と連携する。
- ・保護者は、早めに障害に気付き、適切な専門機関や学校での対応をする為、支援機関とつながることが重要。
- ・本人は、基本的な生活リズムや日常生活のスキル、社会性を身に付け、自己理解が必要。自分の口で表現できるスキル、就労意欲を持つことも必要。

・・・他、多数ありました。



松為 信雄氏
(文京学院大学教授)

企業・支援者・保護者の
皆さん、それぞれの立場
で厚生労働省の公表さ
れている「合理的配慮指
針事例集」を参考にして
ほしい。



湯田 正樹氏
(クロスジョブ東京)

「本人の希望を取り
入れる」ために…



石川 誠氏
(株式会社いなげ
やウイング)

「人材育成」
人は企業の宝で
す。